

(国) 福島大学

行政政策学類

キャリア教養学科 (橘高校出身)

Q. 編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

高校の時の大学受験に失敗した時です。大学入試の一般試験がダメでも編入学という形でリベンジできることを高校の先生から聞き、自分ももう一度頑張りたいと思い、編入を考えました。

Q. 編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

1年の前期は、自分で情報を集めたり目指す大学や学科を絞ったりしました。後期に入り、キャリアデザインⅡの講義で小論文の書き方の指導や面接練習から大学研究のやり方まで、幅広く丁寧に教えていただきました。

Q. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

英語に関しては、実際に問題に取り組み始めたのは1年の後期あたりです。自分で問題を解いて、解説を読んでも理解できないところを授業終わりに先生に質問しました。小論文や志願理由書は、キャリアデザインの授業で取り扱った際に書き直しをしたり添削して頂いたりしました。

Q. 編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

英語の力を底上げしたことです。高校時代に身に着けた英語の力をステップアップさせ、編入学試験に対応できる水準まで力を伸ばしました。1年の前期では文法や文の構造の捉え方を再確認し、後期以降 その知識を実践的に活用しながら文章読解していきました。

Q. 聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

幅広い分野の学問に触れることで、様々な視点から物事を捉えられるようになったことです。他には、ビジネスマナーを身に着けられたことや、宗教に触れたことも良い経験になったと思います。

Q.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

四年制大学への編入学に合格することだけを考えるのではなく、そこで何を学び、将来どのような職業に就きたいのか考える必要がある、というアドバイスです。視野が狭くなりがちだった時期にこの言葉をいただいたことで、自分の目標を再確認できました。

Q.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

①早く短大の受験を終わらせて編入のことだけを考えたいと思っていました。

②志望大学に落ちたからこそできる経験を探していました。

③このままでは絶対受からないだろうと諦めていました。

④ついに大学受験が終わったという安堵感が大きかったです。

Q.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

大学入試制度が変わってきている今、一般入試に比べて試験科目の少ない編入学は割の良いアプローチの一つだと思います。また、編入学が実現すれば2つの大学に在籍できるため、出会いの場は単純計算で2倍になります。自分がやりたいことも明白になるため、濃密な大学生活を過ごせるのではないのでしょうか。自分の目標に向かって、自分を信じて頑張ってください。

